

日本一の湖・琵琶湖の生き物が今危ない！

ビワコオオナマズ、ビワマスに、鮒ずしにするニゴロブナなど、滋賀県の琵琶湖には魚だけで16種、それ以外も含めるとなんと60種以上の固有種が生息している。

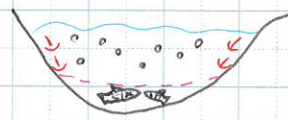
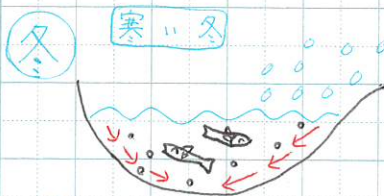
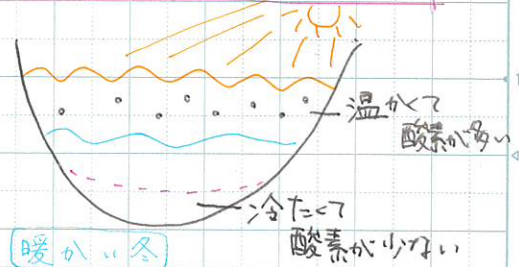
琵琶湖は日本一大きいだけでなく、とても古い湖。現在の三重県伊賀市あたりに古琵琶湖ができたのは約400万年前。途中、消滅などを繰り返しながら地殻変動で少しずつ北へ移動し、現在の琵琶湖南部は約100万年前から、北部は約40万年前から存在している。それだけ古くからあるので固有種が多い。

湖水は、夏には表面が暖められ、冬には冷やされて重くなり、深いところへ沈み込むなど季節によって変化している。ところが最近、冬の気温が上昇傾向にあり、冷た

く、酸素をたくさん含んだ水が琵琶湖の底まで十分に到達しなくなっている。湖は閉鎖系水域といわれている。湖の底に生きている生物にとっては、浅い川を経由して他の場所へ移動することができず、まさに危機的状況である。

寒さと雪が湖の水を循環させる

- (夏) ① 上部に太陽、光が入り、植物プランクトンが増殖
② プランクトンが酸素を放出



- ① 酸素たっぷりの水が冷える：とて下へ沈む
② とんどん冷やされて底まで行く
③ 底の水が冷えて、酸素が行き届く

冷えて酸素を含んだ水が底まで行かない

深呼吸できない!!

琵琶湖の深呼吸

(ふ) 今、地球温暖化で近くの琵琶湖の生き物に影響がでていることが

分かんないが、表に書こう。